

「VICTORY！」は、『湘南ベルマーレ』というJリーグクラブのホームタウンに住むみなさんに、サッカーを通じてより多くの人とふれあい、地域への思いを深め、スポーツの楽しさを体感していただきたい、そんな願いを込めてASAがお届けする情報紙です。

企画・制作 / 株式会社 朝日新聞経営研究センター 協力 / 株式会社 湘南ベルマーレ

## “昇格へのラストチャンス” 最初からそのつもりで戦っていた。

長く険しい道のりが続く42節のリーグ戦も残すところ4試合。どんな状況でもどんな相手でも開幕から貫いてきた攻撃的な“湘南スタイル”は崩さない。昇格のカギを握るのは今季キャプテンとしてチームを牽引し続けた坂本紘司だ。

## No.8 坂本 紘司



### ラストチャンスの意味。

今季のチームは曹貴裁監督のもと、目の前の『勝点3』を全力で取りに行くことに集中して一試合一試合戦ってきました。そんな中で、口には出さなかったけれど、僕個人としては最初から“J1昇格”だけを強く意識してきたんです。

それは、今年に限ったことではなくてJ2というステージで戦っている以上、上を目指すのは当然のこと。とくに今季はラストチャンスだというぎりぎりの気持ちで臨みました。僕の選手生活は、あとののくらい続けていけるのか、という年齢的なこともあります。それからこのチーム。若い選手たちが『成長しながら結果を出す』という、両方がうまくかみ合った本当にいいチームです。そして全員が高いモチベーションで団結しているシーズンは、そう何度もあるもんじゃありません。『チームは生き物』というけれど、来年になればメンバーもどうなるかわからないから、このチームで戦えるのは今年限り、ということになります。

若い選手のなかにはまだ実感がわかなくなったり、逆にプレッシャーを感じている人もいると思うけれど、僕にとっては昇格するための1年だったのだから、いま昇格争いの渦中にいるからといって、ここであきらめることはありませんね。

### ピッチの中で、外で、チームのために。

1年目、2年目の選手には、まだチームというのがどういふものかわかっていないと思うんです。過去の成功例、失敗例をいろいろ経験してきた僕には、そんな“若いメンバーでチームを作る”ための手助けをする役割があると思ってやってきました。高いモチベーション、意思統一、同じ方向性。チームのために必要なものを、自分の言葉や行動で見せるように心がけてきました。

とくに今年は、誰にも絶対的なレギュラーポジションを約束されていない状況で、みんな練習から必死になっています。僕も開幕から試合に出られないことが多かったけれど、チームとしてまとまるためには、出番のない選手のとりにくみ方とかモチベーションのあり方は大切です。日々のトレーニングや練習試合でも決して気を抜かず全力でとりにくむ。仮にうまくいかなくても、

頑張り続けるのがプロ。プロとはそういうものだというのを伝えてきたつもりです。

試合に出るようになった6月ごろは、チームがなかなか勝てなくて自分たちの力に対して半信半疑になっていたころでした。そこですべきことは、まず落ち着かせてみんなを安心させること。そして、自信をなくしたり緊張している選手がのびのびプレーできるような環境を作ること意識して、多くのチームメイトと話をしました。試合前の円陣では、そのときの空気を僕なりに感じとって、冗談を交えたり、気合を入れてきつことを言ってみたり。若い選手はどうしてもメンタル的な浮き沈みがあって、好調不調の波が激しいので、なるべく気持ちが楽になるような声をかける。そんな自分にできることを精いっぱいやってきました。

### 昇格争いをいかにして勝ち抜くか。

リーグ戦は残り4試合。昇格争いの中で、たぶん経験したことのない緊張感やプレッシャーを感じることもあると思います。そんなときって、だいたい『いつも通りだろう』という話になるけれど、いつも通りなんて絶対できない。できるはずがない(笑)

だから僕は、いつも通りできないことを想定してやろうと言います。上手くいかなくてあたりまえ、それは想定内だ。あわてることはない。他のチームだってプレッシャーを感じて戦っているんですから。

前回昇格した2009年は、僕も30歳過ぎていたけれど、全然いつも通りのプレーができなかったし、それどころかゲーム内容も覚えていないくらい緊張していたんです。でも最後の最後に勝敗を分けるのは気持ち。

“J1に上がりたいんだ”とより強く思っているチームが勝つ。それは僕の経験から、まぎれもない事実です。そして僕自身は、気持ちでみんなを引っ張っていく準備ができています。だめだったら次、というわけにはいかない。ラストチャンスだから。

### その先のステージへ賭ける思い。

J1には、やり残してきたことがたくさんあります。2010年のシーズン(J1)は、迷ったり自信をなくしてシステムを変えたり、守備の修正ばかりに追われて終わってしまった。満足に自分たちのサッカーができな

かったんです。言い方は悪いけれど、どうせ降格するんだったら自分たちのスタイルを貫きたかった、という悔いも残っています。

昇格したらこのチームの“超攻撃的サッカー”でJ1のステージに乗り込みたい。レベルも高く厳しいリーグだから簡単に勝てるとは思わないけれど、自分たちの今のスタイルがどこまで通用するのか試したいんです。失点もすると思うけれど、1点とられても2点とりに行くのがベルマーレのサッカー。J1でNo.1のスピードと前への推進力をもったチームとして挑戦したい。それに若い選手たちが早い時期にJ1を経験できるのは、選手個人にとってもクラブにとってもすごい財産になる。

### みんなの泣き顔が見たい。

2009年、水戸との最終戦に勝利し、昇格したときのサポーターのみんなの熱狂ぶりは忘れられません。あの光景を思い出すとモチベーションも上がるし、エネルギーも湧いてきます。あのときも『信じて戦おう』と言い続けてきました。そして昇格という目標を達成することで信じる力の大きさを証明した。今回も“みんなは僕たちの力を信じて、僕たちはみんなと一緒に戦っていることを信じて”、そういう強い絆で結ばれていれば必ず結果を出せるはずなんです。

僕はもう一度みんなで昇格を喜びたい。喜んで泣いているサポーターの顔が見たいんです。前は自分が泣いてしまっていてそれどころじゃなかったから、次は余裕をもってみんなの顔を見られると思います(笑)

(インタビューは10月4日に実施)

### Profile

坂本 紘司 (さかもと こうじ)  
1978年12月3日生まれ(33歳) 滋賀県野洲市出身  
在籍13年目となる今年は、初のキャプテンとしてチームをまとめ、牽引してきた。ベルマーレの象徴として、その存在感は揺るぎない。 175cm/68kg

## 天皇杯3回戦 柏レイソルに惜敗。

10月10日(水)第92回天皇杯の3回戦。日立柏サッカー場で昨年のJ1リーグ王者柏レイソルと対戦した湘南ベルマーレ。先制しながらも追いつかれ、後半アディショナルタイムに逆転を許してしまった。湘南らしさを十分に発揮し、90分間柏を苦しめる戦いぶりだったが、最後は一步およばず悔しい敗戦となった。



前節の愛媛戦でケガから復帰したハン・グギョン選手。天皇杯でも身体を張ったプレーで攻守にハードワークした。▶

◀相手のGKがはじいたボールをヘッドで押し込み先制点をあげた大槻周平選手(左)。その後も何度もゴールに迫るアグレッシブなプレーを見せ会場を沸かせた。



## 残り試合にすべてを懸けて「Light Green Soul ~キミドリ魂~」実施

3年振りのJ1昇格を掴みとるために、選手・サポーター一丸となりラスト4試合に全力を傾けて戦いましょう。ホームゲームの2試合、10月21日(日)のジェフユナイテッド千葉戦と11月4日(日)のガイナレ鳥取戦では、ご来場いただいたベルマーレサポーターの皆さんにライトグリーンのピブスを配布します。このピブスを着用してスタジアムをライトグリーン一色に染め、ピッチで戦う選手たちを“キミドリ魂”で後押しします。全員の思いをひとつにしてJ1へ!

### ●2012 試合日程

節	開催日	キックオフ	対戦相手	開催場所
39	10月21日(日)	16:00	ジェフユナイテッド千葉	Shonan BMW スタジアム平塚
40	10月28日(日)	16:00	カターレ富山	富山県総合運動公園陸上競技場
*41	11月4日(日)	16:00	ガイナレ鳥取	Shonan BMW スタジアム平塚
*42	11月11日(日)	13:00	町田ゼルビア	町田市立陸上競技場

\*ホーム最終戦 \*今季最終戦